

目的 被服構成における重要な計測部位である胸囲(上半身部最大周径)の測定は、計測位置の選定に個人差があり、計測しにくく、誤差が多い。この部位を対象にしてオ1報で報告したアイディアを適用し、下半身部の計測スケールを改良したものを使用し、計測技術の熟練度にかかわらず正確、迅速に計測できる方法を考案したもので、その測定値を用いに着用実験結果を報告し、計測法を評価する。

方法 被検者として女子大生(18才~19才)172名を対象にして身体計測を行なった。この中から従来、主に行なわれている測定法の胸囲(乳頭位水平胸囲)と本スケールによる測定方法による上半身最大周径との両者の差が大きい被検者を選び出し、胴部原型による着用実験を行ない比較検討した。

結果 全被検者の測定結果は従来の乳頭位水平胸囲平均が83.56cm、本スケールによる最大周径平均は85.17cmであり、両者の差の最大値は4.6cm、差の最小値は0cm、その偏差値は1.08となった。胸囲測定値により製作した胴部原型の着用結果は、ゆとり量が少ないのに対し、本スケールにより得た値によるその着用結果は、適当なゆとり量をもつものを得た。胸囲計測に当り本スケールの上半身部周径の計測法が適切な値を得ることができるという結果を得た。尚本スケールによる計測は熟練度に左右されず、平易迅速に最大周径を正確に得ることができるので、身体の他の部位、たとえば腕部、大腿部などの最大周径の計測にも適用可能と考えられるので、これらについて今後研究を進める予定である。